

**トランプ米大統領「パリ協定」から離脱表明、その結果は!**

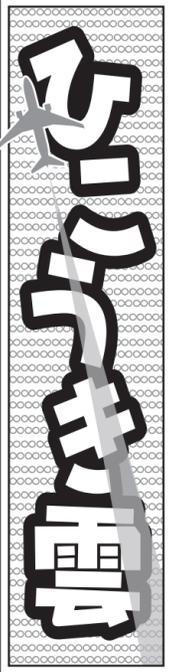
早くから予想されていたといえ、アメリカの「パリ協定」離脱の衝撃は大きく、各国や米産業界からも批判が相次いだ。「パリ協定」は気候変動枠組条約に加盟する、全196カ国全てが参加する世界初の枠組み協定で、参加してないのはシリアと、より厳しい対策を求めるニカラグアだけであった。

パリ協定は、途上国も削減目標を持った最初の協定で、それを主導したのは、米国と今までの途上国を代表して、先進国批判の急先鋒だった中国の協力だった。今回の米国の裏切りは、中国の対応次第では途上国の大量離脱となり、パリ協定の崩壊につながるかねない事態でもあった。中国は排出量を2030年までに減少に転じさせると約束したが、30年頃までは増加が続くとしている。これはトランプ大統領も指摘した点だが、中国

# 地球温暖化問題の現状「COP23」?

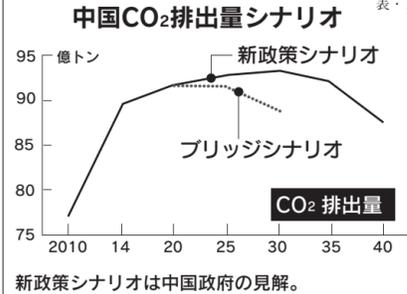
**ドイツのボンで開催された「COP23」国連気候変動枠組み条約締結国会議の成果?**

地球の平均気温上昇を産業革命以前に比べ2℃未満に抑える「パリ協定」は守られたか。



発行所 髯 松下 孝 建設  
 発行人 松下 孝 行  
 編集責任 齋 藤 恭 誠  
 ■ 本 社  
 〒891-0108  
 鹿児島市中山1丁目14-29  
 TEL 099-267-7594  
 ☎ 0120-079-089

この経済成長も長期的見れば、現在の7%を超える水準から3、4%台へと低下すると見込まれ、国際エネルギー機関(IEA)は二酸化炭素規制を適切に行えば、2020年代前半に排出量が無難なく減少に転じると、表1の予測よりも、かなり楽観的な見通しで30年ごろには10年代前半の水準に戻すことも可能との分析を公表している。



新政策シナリオは中国政府の見解。ブリッジシナリオはIEA(国際エネルギー機関)の見解。

中国は、今までのような温暖化対策に対する発言のように、発展途上国と経済大国を使い分けることが許されなくなっている。それにより、現実的な問題として北京や上海等、大都市の冬の空気汚染は、人が住む限界まで達し、このまま大気汚染を続けていくことは、政権の存亡にも関わる、大きな問題となっているようである。

これが実現可能かどうかは、排出量取引で。中国は国連が管理するクリーン開発メカニズム(CDM)では世界最大の排出枠(クレジット)を供給国でもある。13年から北京市などで排出量取引(ETS)を導入し、17年までに規模の拡大を目指してきたが、16年度までの達成率は予定の60%程度と言われている。「二帯一路」路線を掲げて、周辺国を巻き込んで、しやにむにヨーロッパ経済まで取り込もうとする中国は、今までのような温暖化対策に対する発言のように、発展途上国と経済大国を使い分けることが許されなくなっている。それにより、現実的な問題として北京や上海等、大都市の冬の空気汚染は、人が住む限界まで達し、このまま大気汚染を続けていくことは、政権の存亡にも関わる、大きな問題となっているようである。

習近平の真の実力が試される中国の環境問題?

中国経済が、更上の次の段階の経済成長を目指すためには、資源やエネルギーを大量に消費する、重工業中心の産業構造からの大転換は避けられない。パリ協定による削減目標の見直しで、今や削減目標引き上げという切り札を持つ中国が、アメリカと同じように、パリ協定を離脱する理由は見当たらない。パリ協定の将来は不確実との指摘もあるようだが、世界的な低炭素社会への移行は、多少の揺り戻しがあっても変わらない。習近平の本気度と真の実力が試されているようだ。

アメリカの産業界や州政府独自の温暖化対策は軽微?

トランプ大統領の離脱表明後、アメリカの多くの州政府関係者や産業界から批判的な声が上がった。ようやく主導権を握って、これからと言うときに、全ての決定を破算にしたのだから、失望感は大抵のものではなかっただろう。

環境保護の非営利団体や組織は「ウイイー・アー・ステイル・イン(我々はパリ協定にとどまってる)」を結成し、COP23で大型の展示・発表会場を設け、温暖化対策の取り組みに関する講演会などを開き、トランプとその支持者以外のアメリカ人は環境問題から離脱しないことをアピールした。

元アメリカ副大統領アル・ゴアが地球温暖化問題に警鐘を鳴らす長編ドキュメンタリー「不都合な真実2」が放映された。地球公開のため来日し、作品は11月3日、第30回東京国際映画祭のクロージング作品として上映された。来日したゴア氏が東京・EXシアター六本木での舞台挨拶に出席し記者会見で「トランプ大統領は、世界だけでなく米国内でも孤立し、影響力をもたなくなっている」と指摘。さらに「トランプ大統領は火力発電所の温暖化ガス排出を削減する規制の撤廃を発表したが、この規制は訴訟が起きて効力を発揮していないので当面の

影響はない。石炭から温暖化ガスがより少ない天然ガスへの転換や、省エネ技術の普及は鈍る気配がない。アメリカがパリ協定に基づいて条約事務局に提出済みの、2025年の05年比で排出量を26、28%減らす目標は、達成できる」とゴア氏は予想している。しかし、今の米国はトランプの温暖化政策を否定する人たちがばかりではない。大統領選でも支持した石炭、鉄鋼など化石燃料多消費型産業に限らず、パリ協定に縛られたくないという声も多いのである。

日本の温暖化対策は充分と言えるのだろうか?

1981年イタリアのローマで行われた「ローマ・クラブ」が50年後の未来を分析した「成長の限界」において、2020年問題を提起し、それが契機となって始まった地球温暖化対策。我が国は全ての面で欧米各国の対策から遅れ、住環境に関しても、2020年により「省エネルギー基準」の義務化が始まる。二酸化炭素削減目標も東日本大震災による原発事故により、全ての原発が停止して石炭火力発電を復活させたり新規建設で、二酸化炭素の排出を削減するどころか、増やしてきた。しかし震災から年数がたち、もはや甘えも許されないう状況になってきている。ZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)など、性能基準が、今までのように低いまでは実現できないレベルまで引き上げられていく。いま住宅を建てることは大きな責任を伴う、特にその責任の大半は施工店が負わなければならないと松下孝建設は考えています。

ハイブリッド・エコ・ハートQ HEAT20 実証モデル

## 中山展示場Ⅲ 公開中!

鹿児島市中山町2341 付近 鹿児島モデル

中山展示場ⅢはHEAT20の断熱性能G2レベル5・6地域基準で建てられ、屋根形状はパラペットの四角形状で、2020年の「省エネルギー基準」の義務化に対応する高性能住宅です。現在の省エネルギー基準と比較すると約2倍以上の断熱性能があります。これから始まる住宅の高性能化時代に先鞭を付ける、画期的な展示場です。季節の移り変わりに是非、この展示場をお尋ね下さい。寒さや暑さを感じる事なく、いつでも快適で爽やかさを感じて頂けるはず。尚、展示場Ⅲ・Ⅴでは、ISO(国際基準)のPMVの測定で、快適性を測定し、本物の快適性をご来場の皆様にご体感していただく予定です。皆様のご来場を心からお待ち申し上げます。

ハイブリッド・エコ・ハートQ HEAT20 実証モデル

## 中山展示場Ⅴ 公開中!

鹿児島市中山町2341 付近 鹿児島モデル

中山展示場ⅤはHEAT20の断熱性能G2レベル、7地域基準で建てられていますが、現状の省エネ基準の2倍弱の性能があります。屋根形状は三角形で、ZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)対応型にしました。2020年までに松下孝建設が建てる住宅の半数がZEHでの建設予定です。住宅性能が高い分、太陽光発電システムの搭載を最少に出来ること、最も電力消費の大きい、暖房コストも抑えることが出来ます。これから住宅に求められる省エネルギーとEV(電気自動車)などの燃料エネルギーを住宅が創り出す、創エネ時代の魁となる展示場です。住宅の快適性を最大限に高め、未来の生活スタイルを先取りした最先端の展示場を是非、皆様でご体感して下さい。

ハイブリッド・エコ・ハートQ 「エアコン1台、全室低温空調暖冷房」

## 加世田展示場 公開中!

さつま市加世田村原3丁目16-3付近 加世田モデル

加世田展示場は将来、ZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)の為の太陽光パネルが取り付けられる様に大屋根構造になっています。また、新しく開発された新型暖冷房空調システムが取り付けられており、夏も冬も低温空調による省エネルギーで快適なシステムが稼働する予定です。平屋感覚の住宅ですが、屋根構造を活かして一室だけ2階に居室が設けられています。大きな開口部と大屋根の今までの加世田にはない全く新しいコンセプトで設計された住宅ですから是非、ご覧頂きたいと思ます。この展示場で新しい松下孝建設に出会えることと存じますので、ご家族の皆様でお出かけください。心からお待ち申し上げます。

ハイブリッド・エコ・ハートQ 「エアコン1台、全室低温空調暖冷房」

## 薩摩川内展示場 公開中!

薩摩川内市天辰町1549-3付近 薩摩川内モデル

松下孝建設のHybrid eco-heartQ工法は、充填断熱と外張り断熱のW断熱工法です。外張り断熱には、遮熱シートが貼られ、住宅が蓄熱されるのを防ぎます。内側の充填断熱は外部の影響を受けにくいので、保冷材として室内の急な温度変化を防ぎ、また、気密性が高いので、室内の涼しい空気が必要以上に外部へ逃げていくのを防いでいます。松下孝建設が標準採用している第三種換気システムは、家全体の空気を動かし、エアコン一台でも温度差の少ない、快適な室内空間を実現しています。

□住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。

**0120-079-089**